

# 継 続 は 力 な り

## 幌向運河下り=形を変えつつ13年



7月21日開催、参加者は28名うち中学生5名。フットパス組と川下り組が交流。

七月の月例フットパスは「幌向運河下り」南幌のまちづくりをスロガンに民間だけ(故人を含めた五人)で始めた。以来、幌向駅通祭や運河祭りなどに形を変えながら十三

年続き、近年は舟の都合で「お断り」するほどに。全国的にも稀な行事、「継続は力なり」と言える。今後参加者の意向も取り入れて新たな企画を増やす方針だ。

### 縄文古道と松浦武四郎の観た世界

#### 千歳~南幌ロングトレイル 60キロ



左: 縄文遺跡群 = キウス遺跡を歩く  
右: マオイ丘陵から南幌へ一直線に下る

# ふらっと南幌

発行元

NPO

ふらっと南幌

南幌町栄町  
4丁目4番19号  
378-2203

千歳空港に降り立つ観光客向けの新たな「道」を作ろうと、紅葉シーズンに入った九月二十一から二十三日、千歳~南幌六十キロを二泊三日で踏破するロングフットパスを開催、十五名が大自然を満喫した。

# ミズゴケ栽培に挑戦

幌向イチゴはミズゴケが必須。故・辻井先生の助言で「ミズゴケ栽培」の挑戦を始めた。七月十二日、直々に紹介された星先生を招いた講演と試験予定地視察及び、フット方式の指導などを皮切りに、江別河川事務所との協力で「江別太遊水池に自生ミズゴケ」を緊急避難、有志らが別環境での増殖プロジェクトを実行中。星先生は十月、十一月に南幌へ。



熊本・東海大准教授星 良和先生の指導でフット方式を実践

花の王様と賞される「ラン栽培」

にもミズゴケは必須。だが、輸入に頼っているが、カナダなど輸出国は「禁輸方針」。ミズゴケ自体が希少になるとともに、観賞用としても



### [eco田んぼ] 近況報告

七月十七日、エコ・ネットワークの小川巖氏をはじめとする酪農大学生らの協力で、草取り作業を行った。参加者は当会メンバーを含め二十三名。今後も定点カメラでの観察を、ユーチューブにアップする予定。なお、ドイツからは栽培したいとの問い合わせもある。



希少なミズゴケで新たな農業の可能性



## ふらっと南幌

www.flat-nanporo.com